

かゆみの評価法、各種動物モデル、痒みの発症や制御メカニズムに加え、最近の治療薬についても解説！

かゆみのメカニズムおよび かゆみの研究・治療薬の現状

- ◆日時：2021年7月21日(水) 13:00~16:00
- ◆会場：自宅や職場など世界中どこでも受講可
- ◆受講料：1名に49,500円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。
 ・1名でお申込みされた場合、1名につき**46,200円(税込)**
 ・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,500円(税込))**

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

☆講師

金城学大学 薬学部 病態薬理学 教授 安東 嗣修 氏

☆講師紹介

1999年3月 富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士後期課程修了
 1999年4月 米国国立精神衛生研究所(NIMH), 米国国立衛生研究所(NIH), 客員研究員(～2000年2月)
 2000年3月 米国国立心臓・肺・血液研究所(NHLBI), 米国国立衛生研究所(NIH), 特別研究員, 兼, 日本学術振興会海外特別研究員(～2001年3月)
 2000年12月 富山医科薬科大学 薬学部 助手
 2005年4月 富山医科薬科大学 薬学部 講師
 2008年4月 富山大学大学院医学薬学研究部 准教授
 2020年4月 金城学院大学薬学部 教授
 現在に至る

☆プログラム

- はじめに
- かゆみの評価法
 - ヒトにおける痒みの評価法
 - 動物における痒みの評価法
 - マウスの行動観察の実践
- 痒みの動物モデル
 - 起痒物質を用いた動物モデル
 - 乾燥性皮膚掻痒症動物モデル
 - アレルギー性掻痒動物モデル
 - アトピー性皮膚炎動物モデル
 - 内臓疾患の痒みの動物モデル
 - その他
- 痒みの発生機序と内因性制御機構
 - 皮膚における痒みの発生機序
 - 脊髄・脳における痒み伝達機序
 - 眼における痒みの発生機序
 - 内因性制御機構
- 治療薬の現状

<質疑応答>

☆プログラム

かゆみは、だれしも経験のある非常に不快な感覚です。特に、疾患の症状の一つとしてのかゆみは、不眠など生活の質(QOL)の低下に加え、例えば皮膚や眼への掻爬により皮膚症状の更なる悪化や眼に至っては白内障へとつながる可能性が高い。従って、痒みの制御は非常に重要です。しかしながら、臨床で問題となる多くのかゆみは、第一選択薬である抗ヒスタミン薬が無効である場合が多く、その治療に苦慮している。かゆみは、主観的な感覚であり、古くはヒトで痒み研究が行われてきたが、倫理上の問題もありその研究はほとんど進んでいなかった。ようやく、二十数年前に動物をもちいた痒みの評価法が確立され、各種の動物モデルが作出され、新たな痒みのメカニズムが明らかにされ、現在に至っている。そこで、本講演では、かゆみの評価法やポイント、各種動物モデル、痒みの発症や制御メカニズムに加え、最近の治療薬に関して概説する。

『かゆみ』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	
お名前	所属	E-Mail	
①			
②			
会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。		<input type="checkbox"/> Eメール <input type="checkbox"/> 郵送	

●セミナーの受講申込みについて●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。
 セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしておりませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

受講料の支払いに関してはHPをご覧ください。
 ⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>
 個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。
 ⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>